



あたりまえの安心には  
だれも気が付かない



since 1947

青果と産地とみなさまの近くにある

日の昇る市場

もっと安心をあたりまえに

**旭** 東京豊島青果株式会社



# 真実は現地にあり

食の多様化が進む今日、青果物流通におきましても自然の流れとして多様化が進んでおります。多様な食は豊かさの象徴である一方で、限られた情報しか持たない消費者の視点に立つと、食の安心・安全が揺らいでいる側面が目立ちます。

市場の取扱量自体は減少傾向が続いておりますが、安定供給システムおよび情報の集積地として我々が果たせる役割は増しこそすれ、減ずることはないと自負しております。

都民の食を「支える」企業であることに留まらず、消費者と生産者を「つなぐ」、自ら情報を「発信する」企業を目指しております。

この変化に対応するため、営業活動にもより高度なスキルが要求されます。「常に自問自答せよ」の当社社是を常に意識しつつ、後進の教育・育成にも努め、社員一同団結し、楽しみながら日々の業務に取り組んでまいりたいと思います。

## 旭の由来

会社設立の際、今まさに日の昇るさま、つまり昇天の勢いで会社が発展するよう、期待を込めて会社の冠としたのが旭の由来です。



代表取締役社長  
小泉 雄太郎

## 駒込土物店（こまごめつちものだな）

16世紀頃、駒込の農民が江戸へ青物をつぎ売りの途中、駒込天栄寺境内のさいかちの木で休憩中に青果を求めて近隣の人々が集まるようになりました。名産の駒込なすの他、土のついた野菜が持ち込まれたので駒込辻のやっちゃ場、駒込土物店と呼ばれるようになりました。

江戸時代には、神田、千住の両市場とともに青物三大市場のひとつに数えられ、幕府の御用市場として栄えました。その後、駒込青果市場となり、昭和12年に豊島区へ移り、東京中央卸売市場豊島分場として開業したのが豊島市場の原点です。



安心・安全を縁の下から支えています。



そして、豊島は今日も起きている。

- 昭和22年 5月 東京豊島青果株式会社設立。資本金230万円。  
東京都中央卸売市場豊島分場、板橋及び王子配給所で業務開始。
- 昭和37年12月 東京都市計画中央卸売市場の変更告示により、豊島分場は豊島市場に、  
板橋・王子両配給所は板橋分場・王子分場に名称変更。
- 昭和46年 4月 コンピュータシステム導入。
- 昭和47年 2月 板橋市場開場とともに、当社板橋支社として業務開始。同時に板橋・王子両支店廃止。
- 昭和47年 4月 板橋流通センター完成、バナナ加工設備、パッケージ場の諸施設稼動。
- 昭和58年 4月 電電公社の全国市況情報ネットワーク「ドレス」システム加入。
- 平成 元年 1月 板橋流通センターに荷捌場建設。
- 平成 3年 6月 会社創設以来、数回の増資を経て資本金は2億3,760万円となる。
- 平成 7年 3月 差圧式バナナ加工施設導入。
- 平成 9年 7月 会社創立50周年記念事業実施。
- 平成12年 2月 生鮮流通ロジスティクス構築モデル実証試験。
- 平成12年 3月 板橋市場内に荷捌場を設置し、開設者へ寄贈。(300㎡、2棟)
- 平成13年 3月 板橋流通センターに併設し、新荷揚場・保冷設備建設。
- 平成16年 2月 NTTデータベジトレース(トレーサビリティ)実証実験参加。
- 平成16年 7月 板橋市場を定温化のため保冷施設3棟720㎡増設。
- 平成16年12月 構内PHSによる新電話システム導入。
- 平成17年 5月 ㈱大宮中央青果市場と業務提携。
- 平成18年 9月 豊島市場卸売場へ低温卸売場建設。
- 平成18年11月 豊島市場内に屋根付荷捌場を設置し、開設者へ寄贈。(600㎡)  
同市場内にピッキングセンター設立。
- 平成20年10月 平成20年度商物分離直接流通成果重視事業に参加。
- 平成22年10月 青果物及び流通を目的に株式会社H&Gを設立。
- 平成22年11月 豊島市場隣接の当社建物1階をパッケージセンターにリニューアルし、  
12月より株式会社H&Gが業務開始。
- 平成24年 1月 構内PHS網と携帯電話を共用した新電話システムを導入。
- 平成24年11月 業務加工に対応した板橋青果流通センターB棟建設。





# 豊島市場の特徴

コンパクトさと歴史が強みの地域密着型の市場。



業務開始年月日

昭和22年5月20日

敷地面積(建物面積)

23343㎡(20282㎡)

豊島市場は「おばあちゃんの原宿」として親しまれる巣鴨地蔵通り商店街のすぐそばにあり、近隣の商社・スーパー・八百屋・小売店などの重要な供給者となっています。

都内中心部に立地するコンパクトな市場であるため、主に豊島、北、板橋、文京区など城北地区の八百屋さんに地域密着で野菜・果物を供給しています。また、昭和12年開場と東京で築地市場に次ぐ歴史を有している市場でもあり、昭和22年にこの地で事業をスタートしました。

初めは近郊農家からの集荷でしたが、今では日本全国、さらには海外からも集荷を行い都民の食を支えています。



## 株式会社H&Gのご案内

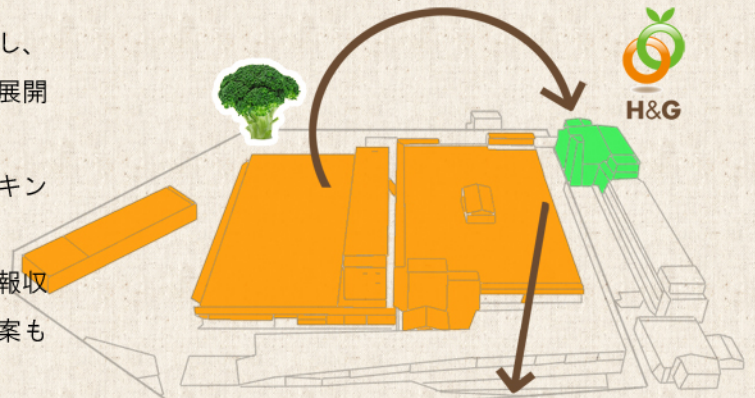
平成22年10月、青果物及び流通を目的に株式会社H&Gを東京豊島青果の子会社として設立。

市場に隣設した“イチナカ”という立地条件を最大限に活かし、生鮮青果物の加工・販売などを中心とした新たなビジネスを展開しています。

従来は市場から離れた加工場で行っていたパッキング、ピッキング作業を鮮度を維持しながらスピーディに実施。

卸売会社との密接な関係により、潤沢な青果物供給体制や情報収集網を確立しており、お客様の要望に応じて幅広い企画や提案も可能です。

市場からすばやく青果を調達  
産地の情報も直接入手



新鮮なままお客様の元へ





業務開始年月日

昭和47年2月28日

敷地面積（建物面積）

61232㎡（51378㎡）

板橋市場は主要幹線道路の隣接地に位置し、関東・甲信越との交通の便が良く、東京と他県を結ぶ重要な拠点として全国から多くの野菜・果物が集まります。

交通の要衝にあり広い敷地を持つ板橋市場は都内中心部の豊島市場と対照的な性格を持っていると言えます。

売買参加者は埼玉県を中心とする都外の業者が約半数を占めています。

約350店近くの小売店（八百屋さん）が仕入れに参入している他、仲卸業者等を介したスーパーとの取引が多くなっており、消費者のみならず安全で新鮮な野菜と果物をお届けしています。



## 旭 板橋青果流通センターのご案内



平成24年11月、業務加工に対応した板橋青果流通センターB棟建設。

流通センターでは品質（商品、サービス）の向上、安心安全な商品の提供の実現のため、商品ごとの最適な温度管理や衛生管理を徹底的に行いながら24時間体制で多くの外食事業、病院給食事業等への商品供給を行っています。

消費者のニーズや取引環境の変化に対応し市場利用の有利性を高めるため、付加価値のある商品提供と物流機能の効率化を推進しています。







東京都中央卸売市場 豊島市場

〒170-0002

豊島区巢鴨5丁目1番5号

TEL 03-3940-9511(管理部)

FAX 03-3918-5177



東京都中央卸売市場 板橋市場

〒175-0082

板橋区高島平6丁目1番5号

TEL 03-3979-7511(管理部)

FAX 03-3979-5788



ホームページ

<http://www.toshimaseika.co.jp>